

〔Ⅲ〕 生徒指導における自由・自主性・規律等の問題

—— 生徒（中学・高校）の実態に即して ——

米 山 誠

1. 教育方針の理想と現実

学校の教育方針、指導目標、又は校風などを、生徒はどのように受けとめているのであろうか。これは、その学校が日常の教育活動の中で、どれだけその方針や目標に即して指導を実践しているかという問題に他ならない。教育方針の類は、定められた当初こそ、いかに教師全員の共通認識と指導の意志統一が得られていたとしても、教師が個々に視野の狭い教科指導や受験指導等に忙殺されるうちに、いつしか顧みられなくなり、やがて時人も移り変わるに及んで、遂には一片の死文と化することが多いのではないだろうか。全国的に生徒の非行問題が急増している今日、各学校において、自校問題点の点検、教育方針・指導目標の再確認等の必要に迫られているといえよう。

名大附属中学・高校の場合、学校要覧に、教育方針として記されていることを要約すれば、「中高一貫教育の中で、心豊かにして主体性のある人間形成と個性の伸長を企図する」ということになる。また、生徒指導目標としては、「中学・高校とも、生徒全員が集団生活を積極的に営み、自主的精神、民主的規律を身につけるように指導する」と記されている。これらの方針や目標が、教育基本法第一条「教育は、人格の完成をめざし、平和な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたっとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない」、第二条「教育の目的は、あらゆる機会に、あらゆる場所において実現されなければならない。この目的を達成するためには、学問の自由を尊重し、實際生活に即し、自発的精神を養い、自他の敬愛と協力によって、文化の創造と発展に貢献するように努めなければならない」等に基づいていることは当然であろう。なお、名大付中・高の校風としては、在校生、卒業生、教師が、最も多く口にする「自由な空気」ということばが、それに当たると思われる。（それは、ある時は誇りをもって、ある時は自嘲的に言われるのであるが。）

ところで、ここに記した教育方針、生徒指導目標、校風等が、現在のはたして日常の教育実践に生かされているのであろうか。率直に言って、教育活動をこの観点

から評価したり反省したりすることは、これまであまりなかった。そこで、生徒たちの中に無気力、怠学、非行等の状況がさまざまな形で目立ち始めた現在、あらためて生徒自身の学校生活に対する意識の実態を把握することの必要性を痛感し、アンケートによる調査を試みた。学校の指導に対して生徒はどう感じ、どう考えているのか、日頃は表面に出ない、心情をなるべくなまなましい形で知りたいと考えたのである。生徒指導のむずかしいこの時期に、適切な指導を具体的に進めるための重要な手がかりが得られるだろうと考えたからである。生徒たちの実態を知ることは、指導上の問題点を具体的に探り出すことであり、われわれ教師自らの姿勢をきびしく見つめ直すことなのである。

次に、調査の結果について記していきたい。

2. 学校生活に対する生徒の意識の実態

以下は、名大附属中学及び高校の生徒に対して実施したアンケートの結果と、それについての簡単な考察である。

○調査の対象生徒

55年度中学一・二年生全員及び高校一・二年生全員

○調査の方法

アンケート（無記名式）。中・高共通のアンケートであるが、質問項目によっては、中学生を除き、高校生のみを対象とした。なお、一部（I・J・Kの項目）に、中学三年生全員に対して別個に行なった同趣旨のアンケートの結果を加えた。

○調査の実施時期 56年3月17日（中三の分は3月7日）

A. 本校の学校生活においてどの程度自由が感じられるか。

	高 一			高 二		
	男	女	計	男	女	計
非常に強く感じられる	2(4)	9(11)	11(8)	2(4)	2(3)	4(3)
かなり感じられる	15(32)	41(51)	56(44)	13(26)	22(32)	35(30)
どちらともいえない	22(47)	23(28)	45(35)	23(46)	24(35)	47(40)
あまり感じられない	8(17)	8(10)	16(13)	8(16)	10(15)	18(15)
全く感じられない	0(0)	0(0)	0(0)	4(8)	10(15)	14(12)
計	47名	81名	128名	50名	68名	118名

「自由を感じる」は、「非常に」と「かなり」を合わせて、高一52%、高二33%、「自由が感じられない」は「あまり」と「全く」と合わせて、高一13%、高二27%。学年別、男女別により相当の差が見られる。

「主としてどんな点で自由なのか。また自由でないのか。」

〔高一〕(1)自由な点 ○「服装、カバン等について強制されない」等20名。○「規則が少ない」8名。○「アルバイトは許可があればやらせてもらえるし、パーマも靴下の色もそんなに強く指導されない。」等4名。

○「服装、頭髪がだらだらしている」5名。○「髪形、制服のブラウス、くつ等の自由は余りよいと思わない」○「自由ということが自由を失わせている。自由すぎる」等5名。○「自由とはある程度規則を守って与えられるものだ。きびしい面はきびしく、自由は墮落につながっている。もう少しきびしくしてもいいと思う」「自由といういい加減さ、無気力さを強く感じる」「別に自由というものに魅力はない」等6名。

○「自由の意義が今だにつかめていない」「どこから自由でどこから束縛なのかわからない」「自由の中にあると自由がよくわからない」等11名。

○「先生が何もしない」「教科担任がいいかげんだ」「担任によって自由さがちがう」等4名。

(2)自由でない点 ○「服装、くつの規定がきびすぎる。」等4名。

〔高二〕(1)自由な点 ○「制約が少ない」「進路選択が自由」「部活動が自由」「生徒会行事」「新聞活動」等17名。○「服」「頭髪」「くつ」「トランプ」等5名。○「精神的な自由が感じられてすばらしい」「行動に対しての規制が余りない。思ったようにできるのは、自分で考えていなければならないので本当の自由であると思う」等2名。

○「自由の中にももっときびしさが必要」「乱れている」「放任主義だ」「自由といっても活発さがなく、だらけているばかりだと思う」「遅刻、早退について追究しない」「校則がゆるいだけ」「みんなの責任に対する意識がなく、先生もみてみぬふりをしている」「自由かもしれないが、何でもかんでも教師側が、“これは校風ですから” “慣習”云々というのに、自由なんて…」「はっきり言って、他の学校に比べて規定は少ないと思う。先生方はスカートの長さにしても、くつにしても自分で判断しろというけれど、私たちにしてみれば、こういう格好は学校に適していないとわかっていても、やっぱり長いスカートををはきたいとか、かわいいくつ下をはきたいとかいう気持ちが先に立ってしまう。だから先生たちの方でもっと規定をきびしくしてほしい。」「自由というときこえはいいが、放りばなしという感じがする。たしかに髪形や服装についてはこと細かに言わないが、みかけは不良っぽく(ス

カート、髪染)なってゆく子には、はれものにさわるなという精神が感じられる。真の自由はないのでは…」等13名

○「自由といっても限度があるし、自由ということばの範囲がわからない」「何が自由で何がそうでないかがつかめない」「真の自由とは何なのか」「規則を守ったことのない人には、自由の意味はわからないし、規則にじばられた経験のない人には自由なんて何の価値もない。はじめから与えられている自由を生徒は使うことを知らないと思う」等10名。

○「形式上かなり自由だが、それに伴うべき気運が感じられなく、精神的にはかなりきゅうくつな学校だと思う」「うわべの自由で中味の自由が全く感じられない」「心が自由になれない」等10名。

(2)自由でない点 ○「外見にうるさい」「この学校は体裁を気にする傾向あり」「結局、常識だのなんだかんだとって、そんなに思うほど自由ではない」「自由だと言われているわりに禁止することが多くなりすぎている」「何が自由だ、服装面や生活指導はぬるいかもしいが、部活にしても下校時刻が早くちゃあ何もできない。購売のパン、飲み物にしたって、どうしてあんなに限られているのか」等6名。

以上の生徒の感想・意見をを通して最も多数を占めているのは、この学校の自由は、きびしさがなく放任主義である、という趣旨のものである。次には、真の自由の意味がわからない、というものである。両方を合わせると、高一、高二ふくめて50数名に上る。現状の自由に対しては批判的、懐疑的であり、もっときびしい規律を求めている生徒が多いと解してよいと思われる。三番目に多いのが、自由がない、学校がうるさい、窮屈だ、という趣旨のものであり、四番目に、現在の自由の状態をそのまま肯定しているもの、という順序になる。ここに示された生徒たちの反応は非常に重要な意味をもつものと考えられる。後の項目と関連づけ考察を深めたい。

B. 本校では生徒の自主性がどの程度尊重され生かされていると思うか。

	高一			高二		
	男	女	計	男	女	計
非常によく生かされている	3	3	6(5%)	6	1	2(2%)
かなり生かされている	11	24	35(28%)	6	6	12(10%)
どちらともいえない	15	37	52(41%)	22	15	37(31%)
あまり生かされていない	17	13	30(24%)	16	30	46(39%)
全く生かされていない	1	2	3(2%)	5	16	21(18%)
計	47名	79名	126名	50名	68名	118名

「自主性が尊重され生かされている」は、「非常に」「かなり」を合わせて、高一33%、高二12%。逆に「生かされていない」は「あまり」「全く」を合わせて、高一26%、高二57%である。常日頃、生徒に対して「自主性の尊重」を云々する機会の多い学校でありながら、生徒側の受けとめ方は、かなり否定的である。前述の「自由」に対する批判と係わっていることは言うまでもない。本校での自由は必ずしも自主性を積極的に養うようなものになっていないと言えよう。

「自主性が主としてどんな点で生かされていると思うか。また、生かされていないと思うか。」

〔高一〕(1)生かされていると思う点 ○「行事の計画・運営」(特に学校祭)等15名。○「研究旅行、林間学校等の企画・活動」等12名。○「女子制服改正運動」4名。○「ホームルーム活動」2名。○「生徒会活動」1名。

(2)生かされていないと思う点 ○「自主性というより勝手という感じ」「尊重されすぎると甘えてしまう」「とても尊重されていると思うが、それが全くよい方向に生かされているかは疑問だ」「部でも顧問は名だけという感じで、自主性の尊重というとひびきはよいが、ほたらかしという感じ」「何に対してもやる人はコツコツやり、やらない人は全くやらず、差がありあり」「やる気の人にしか通用しない教育方針だ」等34名。

○「生徒が自主性というものをまだよく理解していないようだ」「生徒会活動ではある程度やれるのだけれども全般的に自主性を問われるような機会がみられないし、みんなに生かそうという気がみられない」「最終的に先生の考え方にひきずられている感じ」「自主性を尊重しようとする学校側の態度に反して、生徒側には自主性が足りなさすぎる。これが結局だらだらしてしまりのない今の学校を作っていると思う。」「服装の面などで余りきびしくないのは悪いことだと思わないが、その自由をかさにきて、限度をわきまえないような人もいるから、それがよいこととはいきれないと思う」「自主性ということばを理解せず、大分だらけているような面もある。もっと本人が自覚しなければ“自主性”は“怠け”になる。そこが、うちの学校の“ぬるま湯”の根源ではないか」等6名。

○「自主性とは名ばかりで、かなり束縛されていると思う」等3名。

〔高二〕(1)生かされていると思う点 ○「生徒会行事で特に生かされている」「文化祭」等3名。○「進学・進路などにゆとりがある。あくまで自分で決めるところにも自主性が感じられる」等2名。○「服装、髪などもとりしまりをするのでなく、自主性にまかせている」1名。

(2) 生かされていないと思う点

○「先生側は自主性を尊重しているけれど、生徒はきびしく言われたいために、ただ毎日を過ごすだけという感じで、余り自主性が生かされていない」「根本的には自主性が養われていない」「甘えが多い」「自主性が余りみられないのに、尊重もなにもない」「ぬるま湯にひたりきっている」「やる気のないものに“自主性の尊重”とってみても役に立たない」「生徒全体に自主性が余りなく、学校の方針がかえってなまぬるい状態を招いている。高2の欠席状況にもそれが出ている」「先生たちは生徒たちの自主性を尊重しているつもりでも、私たちに伝わっていないような気がする」「教育方針が高すぎて生徒がそれについていけない」等24名。

○「結局は先生が全部決めてしまう」等4名。○「学校のみえやていきいにすぎない」等6名。○「実際は単なる放任にすぎない」「部のことだって結局放っておくだけで、……こういうのは自主性とは言えないのではないか」等12名。

○「変なところでは自主性だなんていって、また、あるところでは生徒をしばりつけているみたいで、本校の“自主性の尊重”という教育方針そのものがわからん」「教師は生徒の意見などを認めると“自由にした”と思い、生徒は真の自由の全く別方向の自由を欲しているの、尊重されているのかどうかわからない」「何が自主性かわからない」「教官側と生徒側の意識のちがいが大いにあると思う」「自主性が生かされているかいないか以前の問題として、信頼性があるかないかについての方が先決問題だと思う」「自主性と称して無責任とかおしつけとか放任とかの逃げ口上になっている」等15名。

以上、「自主性の尊重」に対する生徒の感想、意見をとりあげたが、ここでも「自由」の場合と同様に、批判的な意見が多い。最も多い意見は、自主性尊重の名の下に、生徒を放任し、甘やかしているにすぎない。という類の指摘である。自主性を生かすことのむつかしき、きびしさを生徒の多数がわきまえており、積極的な指導を望んでいるのである。

C. 本校の指導は生徒にとってきびしいと思うか。

	中 一			中 二		
	男	女	計	男	女	計
非常にきびしい	1	0	1(1%)	6	0	6(8%)
かなりきびしい	3	4	7(8%)	7	3	10(12%)
どちらともいえない	22	26	48(55%)	17	19	37(46%)
あまりきびしくない	15	15	30(35%)	9	14	23(29%)
全くきびしくない	1	0	1(1%)	2	2	4(5%)
計	42名	45名	87名	41名	38名	79名

	高一			高二		
	男	女	計	男	女	計
非常にきびしい	1	1	2(2)	1	2	3(2)
かなりきびしい	4	7	11(9)	4	5	9(8)
とちらともいえない	20	28	48(37)	22	22	44(37)
あまりきびしくない	16	35	51(40)	14	25	39(33)
全くきびしくない	5	11	16(12)	9	14	23(20)
計	46名	82名	128名	50名	68名	118名

「きびしい」は、「非常に」「かなり」を合わせて、中一9%、中二20%、高一11%、高二10%。「きびしくない」は、「あまり」「全く」を合わせて、中一36%、中二34%、高一52%、高二53%、中・高とも、きびしいと感じている生徒は非常に少いと言ってよい。「特にどんな点できびしいと思うか。または、きびしさに欠けると思うか。」

〔中二〕(1)きびしいと思う点 ○「服装」「カバン」「帽子」「くつ」「ホック」等15名。○「頭髪」3名。○「すぐなぐる、ける」2名。○「少しのことですぐ注意する」等3名。

(2)きびしくないと思う点 ○「規則があまりない」「あまりきびしくないし、細かい点までぶつぶつ言わないで生徒を信じていると思う」「身の回りのこと(カバンなど)にあまりきびしくない」「髪形など自由にさせてくれる」「髪色の脱色、染色をなぜ注意しないのか」「小学校の時は廊下を走ってはいけなかったけど、この学校はそんなことがない」「授業の点では追試とか補習がなくてきびしくない」等8名。

(3)わからない ○「先生によってきびしい人もそうでない人もいて差がはげしい」「きびしい時もあるし、やさしい時もあるからわからない」「生徒に対してひいきがある」等6名。

〔高一〕(1)きびしいと思う点 ○「くつ、くつ下についてきびしい(どうしてくつばかりきびしいのか)」「小さいことにうるさい」等7名。○「くだらない規則がないことはよい。ただし何か禁止する場合、上からの押しつけという感じが強くて、その過程がいまいにされることが多い」○「自由を与えられても、それを使いこなすだけの自主性がない生徒にとってはきびしい方針だと思う」○「本校の指導はかなり合理的であると思う。道徳上のことなどにはわりときびしくて、みかけのゴタゴタを余りうるさく言わない。反省すべきは、それをきびしくさせる生徒の方ではないかと思う」

(2)きびしくないと思う点 ○「放任主義」「みのがしている」「先生の見て見ぬふりが多い」「けじめがない」「生徒まかせ」「悪いことを悪いという勇気がない」「先生の威厳がない」「先生は生徒の心が本校

の自由についていけないというが、先生だってついてゆけない人が多いと思う。だから余りきびしくないのだ」「学習面でも生活面でも自主性の尊重というときこえはいいが、どちらかという、放任主義みたいな感じをうける。それでいて、つき放すことがなく、甘い感じがする。こんな学校中のだらけたムードはたまらない」等13名。

○「服装がはですぎる」「くつ、くつ下についてきびしくない」「登校時刻がルーズ」「髪形や靴等の規則は決められているだけという面が多いと思うので、もっときびしくした方がよいのでは……。入学式や卒業式での生徒の態度はあきれれるほどだ。もっとそうすべき時は緊張した態度をとらすべきだと思う」等16名。

○「先生によって指導の仕方がちがうのはおかしい。たとえば、制服の下にマフラーをしてはいけないということだが、していても怒られなかったことがある。その時はしてはいけないことを知らなかったのよなものばかり思っていた」「先生により異なる」等6名。

〔高二〕(1)きびしいと思う点 ○「何でもないことだけにきびしい感じ(くつの色)」「くつだけにきびしい、ばかみたい」「特にくつネェ、あとパーマのこととかはそう大して言わないくせにき、くつのことになると目の色変えて叱る。くつのこと言うならパーマのことだってスカート丈だってうるさく言えばいいのに、くつだけ言って学校がよくなるとでも思っているのかネェ」等21名。

(2)きびしくないと思う点 ○「全然きびしくないの生徒はだらだらしてくる感じ」「すべての面でたるんでいる」「服装や靴、中には女子で顔にどろのような化粧をしているものがある」「欠席・早退・遅刻にルーズ」「自由な学校であるためか、生徒の勝手にしろという感じがする」「この学校では指導に柔軟性があり、よいことだと思うが、反面、それに伴う問題として、現在のような無断欠席の増加がある」「生徒の自主性にまかせるというのが逆にカタにはめないという感じになって、最近非常に生徒の生活が乱れていると思う。もっときびしくすべきだと思う」「うるさいだけできびしさはない。きびしいというのは、あれもダメ、これもダメというのではなく、自由な中でも筋を通すことだと思う」「部活動などできびしくしてほしいと思うのに、全くきびしさが無い」「ものごとをいまいにすませている感じ」「少なくとも服装だけはキチッとさせてほしい。なぜカラーなし、バッジなしを放置するのか」「本当のきびしさは全くない。心からきびしくするのでもなく、ていさいをつくらうだけで中味は放ったらかし」「たばこをもっていたり、カンニングをしたりしてもナンニモバツがないのは

おかしい」「何でも中途半端」「野放しにするのが自主性の尊重ではないはずだ」等45名。○「学習面にきびしくないのが不安」等9名。

○「指導のきびしさに個人差がありすぎる。しめるところはもっと徹底的にした方がよい。くつの問題にしても安くてはきやすくできるものまでファッション性のないものが違反ぐつというのはやっぱりおかしい」「生徒に対して無関心、サラリーマンのような先生がほとんど」「先生と生徒のつながりが薄いのに、先生は生徒のことを知ったかぶりをして嘆く。適切な指導に欠ける」等5名。

以上の生徒の感想・意見をみると、中・高ともに、学校の指導について、きびしさが欠ける、放任にすぎない、生徒の生活態度が乱れている、などの批判的な意見が多数(高一、二合わせて100名以上)によって強く述べられている。これは、前述の「自由」「自主性」の場合と深く関連し合っていることは言うまでもない。端的に要約して言えば、生徒たちは、きびしさを求めているということである。具体的には、服装の乱れ、遅刻・欠席等々の諸問題をきびしく注意して、生徒全体の基本的な生活態度の確立と集団生活の規律が強く求められているわけである。そして、教師の姿勢の安易さ、指導の不統一の実態がきびしく批判されていることを謙虚に反省し、生徒たちの良識ある期待に応えるような指導を実践するため努力しなくてはならない。

D. 自分たちのホームルームの諸活動は充実していると思うか。

	中 一			中 二		
	男	女	計	男	女	計
非常に充実している	3	11	14(16) [%]	2	1	3(4) [%]
かなり充実している	12	19	31(35)	2	2	4(5)
どちらともいえない	4	6	10(11)	17	10	27(34)
あまり充実していない	21	8	29(33)	17	21	38(47)
全く充実していない	3	1	4(5)	4	4	8(10)
計	43名	45名	88名	42名	38名	80名

	高 一			高 二		
	男	女	計	男	女	計
非常に充実している	0	0	0 [%]	2	0	2(2) [%]
かなり充実している	2	6	8(6)	0	7	7(6)
どちらともいえない	14	27	41(32)	5	9	14(12)
あまり充実していない	20	37	57(45)	17	26	43(36)
全く充実していない	11	11	22(17)	26	26	52(44)
計	47名	81名	128名	50名	68名	118名

これは、ホームルーム別に集計して、それぞれの特色がわかるようにするのが望ましいが、他の項目と同様に学年としての傾向を見るにとどめた。「充実して

いる」は「非常に」「かなり」を合わせて、中一51%、中二9%、高一6%、高二8%。「充実していない」は、「あまり」「全く」を合わせて、中一38%、中二57%、高一62%、高二80%。これは大変気にかかる数字である。ホームルームの活動が充実せず停滞しているということは、学校全体の活力にも、個々の生徒の意欲にもかかっていることである。大多数の生徒が充実していないと感じている。その実体はどういうことなのであろうか。

「どのように充実しているのか、または充実していないのか」

〔中二〕(1)充実している点 ○「みんなが懸命にやる」「なにをやるにもほとんどみんなが協力してやっている」等4名。○「みんなのやりたいことができる」「ショートタイムやロングタイムに話し合える」等2名。

(2)充実していない点 ○「クラスのまとまりがない」「だらだらしていて、どうでもいいというふんいき」「みんな勝手なことをしゃべっている」「男女が対立している」「リーダーがいない」「計画をまじめに立てない」「内容がつまらない」等44名。

○「先生が横から口出しするため自分たちの考えが無視されてしまう」「担任によってやりかたがちがう」等4名。

〔高一〕(1)充実している点 記入者なし。

(2)充実していない点 ○「だらだらしている」「自分たちの活動という自覚がない」「何をやっているのかわからない」「時間ばかりかけていて、話を聞いている者が少ない」「ST、LT等はどうでもよいという人が多い」「みんな他人まかせのゆすり合いで全然もり上がらない」「ずばり言って、惰性でやっている気がする。全体がだらだらしていて、一部の人たちだけでから回りしている。」等60名。○「LTの計画がだめ」「一年間充実したLTがなかった」「LTは必要ない」「すごいなりゆきで、全然計画性がない。やっても無意味なことばかりをくり返して、すごくムダな時間だと思う。こんな風なら、個人の時間に代えてしまって、もっと充実した時間を送った方が……と思う」等20名。

〔高二〕(1)充実している点 ○「自分が企画しているので充実していると思う」○「担任がすごく熱心」「うちのクラスはわりと自主性があると思う。『おたより2B』なんか作ったりしているし……のっているときはみんなめっちゃのってるから……でも、そこに先生が首をつっこんだらあかんと思う。自主性も何もなくなっちゃう。私たち自身のことだから先生にどうこう言われたら反抗したくなる。やっぱ」○「学校祭、体育関係の大会では多少はりきっている」等7名。

(2)充実していない点 ○「なんとなくグループに分かれてだらだらやっている。全くこれで自主性を教育

方針にしている学校かと思われる」「まとまりが全然なく、シラけるようなホームルームの時間が多くなってきた。これも“自主性にまかせる”という教師側の落度ではないか」「有志のものが一ヶ所に集まり好き勝手なことをやっている、STのとき」「LT、STについては、その必要性を問うべきである。無理やりクラスとしてまとめるために時間を浪費しているのではないか」「自分もふくめて無気力の人が多すぎる」等28名。

○「ホームルーム活動に計画性がない(LT等)」「散歩ばかりしていた」「トランプ大会」「ダベリング大会」「LTって時間の無駄ばかりしている」「先生の休憩の時間か?」「前もって準備などが全くなく、前日になって明日何をやりますか、と聞くだけで中途半端なLTです」「生徒の虚無的態度がひどい」「LTはなくせばよい」等60名。

以上のように、高一でも高二でも、100名近くの生徒が、ホームルームのまとまりのなさ、活動の無計画性、生徒の無気力な状態を述べている。そして、LT等の意義や自主性尊重の教育方針への疑問を投げかけているものもある。こうした、荒唐とも呼べそうな状況を生徒も教師も共にきびしく反省し、今後いかにして自主的な活動として充実させていくかを真剣に考えとり組まなくてはならない。そのためには教師が積極的に指導性を発揮することは当然必要である。

E. ホームルームの自主的な諸活動に対して、学校・担任から指導、協力を望むか。

	高一			高二		
	男	女	計	男	女	計
強く望む	2	5	7(5%)	5	0	5(4%)
ある程度望む	7	9	16(13)	14	17	31(26)
どちらともいえない	20	43	63(49)	16	27	43(37)
あまり望まない	14	20	34(27)	12	12	24(20)
全く望まない	4	4	8(6)	3	12	15(13)
計	47名	81名	128名	50名	68名	118名

全体としてみると「指導・協力を望む」は、高一18%、高二30%。「望まない」は、高一33%、高二33%。前の調査で、自分たちのホームルーム活動は充実していないと思う生徒は大多数であるのに、それでも、学校・担任の指導、協力を望む生徒は比較的少数である。これは、自主的活動のあり方について、特に生徒と教師との関係についてのとまどいが示されていると思われる。

「どんな指導が望ましいと思うか」

【高一】 ○「話し合いに参加してほしい」「口添えてほしい(過去の例などあげて)」「自由にやらせ

てほしい時も多いが、やはり人生の大先輩として体験談をまじえた指導やクラスの一人としての活動をしてほしい」「クラスをまとめてほしい」「何をやれとかいような先生のワンマン指導はいやだが、生徒のやる気をもりあげたりしてもっと協力してほしい」「だらけムードにカツを入れるとか、議事進行の仕方を指導するとか、ホームルーム時間のもっと有効な使い方を進めるようにしてほしい」「縁の下の力持ち(主なことは生徒にまかせて)」「球技大会など応援に」等34名。

○「生徒にまかせよ。生徒の自治体制の尊重を」「オブザーバーとしてみているだけにして」「自主性、自主性とわめいているわりに、しゃしゃり出てきて文句が多い」「くどくどと言わないで、さっぱりとした指導をしてほしい。くどくど言われると素直に聞けるようなことでも聞きたくなくなります」等12名。

【高二】 ○「助言するとか活動に参加するとかして生徒と一体になってやってほしい」「指導というより、参加を望む」「悪いところをどんどん指摘してほしい」「命令ではなく先生もHRを作っていく一人として共にやってほしい。ぼくのクラスの担任はその点すばらしい」「はずかしいことだが、もう少し先生に積極的に介入してほしい」「HR活動はどうあるべきか、そういう考えをしっかりとってほしい。そして、生徒のゆるみ(クラスの不統一)を正してほしい」「軌道はずれてしまったとき修正してほしい」「教室にいてほしい」「指導が多いと自主性がなくなるし、指導が少いとまとまらない」「先生と生徒の接する場をもっと多く」「クラスで何かやろうというふうなふんい気を作ってほしい」と思うが、担任の力をそこまで借りるのもどうかと思う」等53名。

○「自主性の尊重を掲げるなら、生徒の自主性にまかせればよいのではないか」「いい意味での放任主義にしてほしい」「HR活動は生徒しだいなのだから、高校にもなって先生が関係すべきではない」「生徒だけの力でやりたい」「HRの時間、先生はどこかに行っていてほしい」等16名。

以上のような生徒の感想・意見をみると、自主的活動の進め方に対する大きな困惑がにじみ出ているように思われる。また、自主的活動の意義についての誤解も目立つ。教師の協力を受けると自主性が損われるという考え方と、生徒の力だけで自主的活動を实行したいが、教師の力を借りずには活動らしい活動ができないという現実との矛盾に苦悩している状況が浮かび上がってくるのである。この生徒の困惑や誤解の原因の中には、自主性の指導に関する教師側の考え方や態度の安易さや不徹底さがあると考えられる。生徒にすべてまかせることを自主性の尊重と解釈しているとした

ら、それは無責任な放任に過ぎない。生徒たちの多数は上記の通り、適切な助言と活動への参加を求めているのである。もし仮に、生徒たちが教師の協力を拒否したとしても、教師は生徒の中へとびこんでいき、充実したホームルーム活動を目ざして努力する責任があることは言うまでもない。

具体的には、生徒たちの集団活動の能力に応じて、例えば、中学生と高校生との差、学年の差、あるいは、指導力のある生徒がいるか否か、等に応じて担任の指導は、適切に柔軟性をもって行われなくてはならない。

F. 現在、勉強(学習)に対して意欲があるか。

	中 一			中 二		
	男	女	計	男	女	計
大いにある	1	0	1(1)	4	0	4(5)
かなりあり	14	10	24(27)	11	13	24(30)
どちらともいえない	19	29	48(54)	17	18	35(43)
あまりない	8	7	15(17)	5	5	10(13)
全くない	1	0	1(1)	4	3	7(9)
計	43名	46名	89名	41名	39名	80名

	高 一			高 二		
	男	女	計	男	女	計
大いにある	3	4	7(5)	5	5	10(8)
かなりある	11	16	27(21)	19	22	41(34)
どちらともいえない	17	27	44(34)	16	15	31(26)
あまりない	7	17	24(19)	7	19	26(21)
全くない	9	18	27(21)	3	8	11(9)
計	47名	82名	129名	50名	69名	119名

「主として、どの教科について意欲があるか」

【中二】 ①英語27名、②数学16名、③理科10名、④社会8名、⑤国語6名。

【高一】 ①数学20名、②英語14名、③理科8名、④全教科6名。

【高二】 ①英語27名、②数学21名、③理科12名、④受験に必要な教科10名、⑤国語9名、⑥社会8名。

「意欲を感じない教科」

【高一】 ①全教科12名(男1、女11)、②理科15名(男5、女10)、③国語12名(男7、女5)、④数学11名(男3、女8)。

【高二】 ①全教科14名(男2、女12)、②受験に関係のない教科3名(男)。

考えてみると、学習意欲を感じない生徒にとって、学校生活とは何の意味をもつものであろうか。学習意欲が「大いにある」は中一1%、中二5%、高一5%、高二8%。逆に、「全くない」は、中一1%、中二9%、高一21%、高二9%。しかも、その学習意欲が、かなり受験に動機づけられていることを思うと、大変なことだと思う。学習意欲のない生徒に対して、いか

に意欲を喚起させるか、そして意欲のある生徒に、いかにしてさらに積極的な意欲をもたせるかが、今後の教科指導の大きな課題といえよう。教師側の学習指導に対する意欲や創意工夫に結びつく研究的実践が強く求められているのではないだろうか。

G. 現在、教科以外の活動(生徒会、部、クラブ、ホームルーム、学校行事等)に対して意欲があるか。

	中 一			中 二		
	男	女	計	男	女	計
大いにある	6	6	12(13)	7	10	17(22)
かなりある	7	21	28(32)	14	9	23(29)
どちらともいえない	18	12	30(34)	15	11	26(33)
あまりない	10	7	17(19)	3	6	9(11)
全くない	2	0	2(2)	2	2	4(5)
計	43名	46名	89名	41名	38名	79名

	高 一			高 二		
	男	女	計	男	女	計
大いにある	5	5	10(8)	3	1	4(3)
かなりある	10	22	32(25)	16	5	21(18)
どちらともいえない	18	22	40(31)	9	17	26(22)
あまりない	8	23	31(24)	17	25	42(36)
全くない	6	10	16(12)	5	19	24(21)
計	47名	82名	129名	50名	67名	117名

「主として、どんな活動について意欲があるか」

【中二】 ①部活動35名、(男21、女14)、②生徒会・委員会8名(男3、女5)、③学校行事4名。

【高一】 ①部活動35名(男13、女22)、②生徒会・委員会11名(男7、女4)、③ホームルーム2名。

【高二】 ①部活動19名(男12、女7)、②生徒会・委員会13名(男12、女1)、③学校行事(文化祭・球技大会)13名(男9、女4)、④ホームルーム7名(男6、女1)。

○「いろんな困難の中からの楽しいことを見つけたり、同じ年の人たちに会うことができる。これはとても心強いし、生きているという感じがする」(高2男) ○「私自身としては、すごく意欲的だと思っている。だけど、私一人ががんばってみても、みんながシラケた感じだとなんかやる気も失せてしまう。イカンなあー」(高2女)。全体としてみると、中学では「意欲がある」が「ない」よりも圧倒的に多いが、高校になると逆転して、「意欲がない」の方が「ある」よりも多くなる。これは学習意欲の場合にも見られたことである。高二是、受験を意識して、学習意欲のある者が増え、その反動として、教科以外の活動への意欲のない者が急増していると考えられる。それにしても、学習、学習以外の活動、それぞれにおいて意欲のない生徒が、中学生20%、高

校生40%前後ということは重大な問題と考えなくてはならない。

なお、学習意欲、学習以外の活動への意欲、いずれをも感じない生徒がどれほどいるのかはわからないが、かなりいると考えられる。学校としては、進路指導を含めて、日常の学校生活に目標をもたせる生徒指導をつよく進めることが必要であると思われる。

H. 現在、非常に悩んでいることがあるか。

	中二		高一		高二	
	男	女	男	女	男	女
あ	11(26) [%]	20(53) [%]	26(64) [%]	52(64) [%]	31(62) [%]	47(69) [%]
な	31(74)	18(47)	21(45)	29(36)	19(38)	21(31)
計	42名	38名	47名	81名	50名	68名

「主として、どんなことについてか」

【中二】 ①成績、勉強、進学等11名(男4、女7)、②友人関係6名(男1、女5)、③異性問題4名(男2、女2)、④性格・身体上のこと4名(男2、女2)。

【高一】 ①進路問題28名(男11、女17)、②勉強、成績21名(男3、女18)、③友人関係5名(女)、③部活動5名(男3、女2)、⑤その他(「学校をやめたい」「この学校に入ったこと」等)3名。

【高二】 ①進路、受験40名(男14、女26)、②勉強、成績8名(男6、女2)、③家庭問題6名(女)、④友人関係4名(男1、女3)、⑤生死に関すること2名(女)、⑥その他(「ありすぎて書けない」等)6名(女)。

悩みをもつ生徒の数は、中学から高校にかけて、学年を追って増えていく。全体としてみると、中二39%、高一61%、高二66%である。また、男女別にみると、どの学年も、悩みをもつものは女子の方が多い。中二では男子の2倍である。女子の指導、特に、進路や友人関係など配慮して進める必要があると思う。

I. 現在、学校生活を楽しいと思うか。

	中一		中二		中三	
	男	女	男	女	男	女
非常にたのしい	5(12) [%]	18(39) [%]	7(17) [%]	14(36) [%]	9(28) [%]	14(32) [%]
かなりたのしい	14(33)	12(26)	14(34)	16(41)	14(35)	9(20)
どちらともいえない	20(46)	12(26)	14(34)	8(20)	10(25)	11(25)
あまりたのしくない	3(7)	3(7)	4(10)	0(0)	5(12)	7(16)
全くたのしくない	1(2)	1(2)	2(5)	1(3)	2(5)	3(7)
計	43名	46名	41名	39名	40名	44名

	高一			高二		
	男	女	計	男	女	計
非常にたのしい	0(0) [%]	1(1) [%]	1(1) [%]	2(4) [%]	3(4) [%]	5(4) [%]
かなりたのしい	7(15)	16(20) [%]	23(18) [%]	17(34)	13(19)	30(25)
どちらともいえない	18(38)	35(43)	53(41)	16(32)	28(41)	44(37)
あまりたのしくない	18(38)	23(28)	41(32)	11(22)	11(16)	22(19)
全くたのしくない	4(9)	6(8)	10(8)	4(8)	13(19)	17(14)
計	47名	81名	128名	50名	68名	118名

全体的にみると、中学では「楽しい」が「楽しくない」より圧倒的に多いが、高校では逆転して、「楽しくない」が「楽しい」よりもかなり多くなる。また、学年別、男女別に傾向が異なることもわかる。例えば、高一、高二を比べると、全体的には高二の方が高一より「楽しい」と感じている者が多い。また、高一では、女子が男子より「楽しい」が多いのに対し、高二では、男子が女子より「楽しい」が多い。それぞれの学年の事情や条件が反映していると思われる。

「楽しいと思うことの主な理由」

- 【中二】 ①友人・交友41名、②部活動3名、③その他
- 【高一】 ①友人・交友20名、②勉強2名、③部活動1名。
- 【高二】 ①友人・交友19名、②勉強3名、③部活動1名。
- ④その他(家からの解放感等)3名。

「楽しくないと思うことの主な理由」

- 【中一】 ○「友だちとのけんか」「友だちが気にくわわない」等4名。○「単調な生活のくり返し」2名。
- 【高一】 ○「充実感に欠ける」「惰性的な生活」「学校生活の意味・目標がつかみきれない」「無気力」等24名。
○「授業がわからない」「勉強ぎらいなくせにいつも学校へ来て勉強しなければならない」「成績不振」等13名。
○「心から話せる友だちがいない」「生徒の人間性がわるい」「不良っぽい人がクラス内にいる」等5名。
○「学校が肌に合わない」「全体的にだらけている」等4名。
- 【高二】 ○「充実感に欠ける」「生活目標がはっきりしない」「毎日の生活が同じことのくり返しで、おもしろくない」「友だちと話しているのは楽しいが、充実感がなく、ただ学校へ来ているというだけで、自分でも何をやっているのかつかめない」「学校へ何をしに来ているのかわからないし、それに学校へ来ても楽しいこと、やりがいのあることもなくて……学校へ来るのもほんとおっくうで、めんどくさくて……全くつまらん school life です」等18名。

○「勉強ぎらい」「学校ぎらい」「学校のふんいきがきらい」「教師も生徒もやる気がない」「勉強したくない人が来ているのがまちがっている。みんな世間体で来てるみたいでつまらん。」等14名。

過去に本校生徒を対象にして、「学校生活を楽しいと思うか」という同様のアンケートを行なった資料があるので、ごく大まかに比較してみたい。

一つは、52年10月調査のもので、中・高とも全学年対象である。全学年まとめた数字にして示すと、「楽しい」は、中学65%、高校37%。「楽しくない」は、中学14%、高校31%である。⁽¹⁾

次は、53年10月調査のもので、中学生全員が対象である。全学年まとめた数字にして示すと、「楽しい」68%、「楽しくない」7%である。⁽²⁾

それに、今回(56年3月調査)のものを、中学は全学年、高校は1・2学年をまとめた数字にして並べると、「楽しい」は、中学58%、高校24%。「楽しくない」は、中学13%、高校37%である。こうして、過去の例と単純に比較してみると、今回の場合、中・高とも、「楽しい」が減少し、「楽しくない」が増加していることがわかる。

J. 学校・教師に対する不満や要望があるか。

	中二		中一		高一		高二	
	男	女	男	女	男	女	男	女
あ	10(24)%	22(58)%	21(53)%	19(45)%	27(57)%	50(62)%	40(80)%	45(66)%
な	32(76)	16(42)	19(47)	23(55)	20(43)	31(38)	10(20)	23(34)
計	42名	38名	40名	42名	47名	81名	50名	68名

不満や要望をもつ生徒の数は、中学から高校にかけて、学年が進むにつれ確実に増加している。全体的にみると、中二40%、中三50%、高一60%、高二70%となる。

「主としてどんなことについてか」

【中二】 ○「いちいち規則規則とうるさい」「他の学校で校内暴力とかが起こるのは、きっと生徒をきびしい校則でしばっているからだと思う」「きびしすぎる、こわい」「今、校内暴力と言われるけど、先生が必要以上に生徒をなぐり、けるのはよくない」等12名。○「ひいきをしないでほしい」「ものごとを公平にみてほしい」「もっと生徒の意見をとり入れて」「先生は生徒の内面的な所をみていないようです」等6名。○「うそをつかないようにしてほしい」「HRに全然来なかったり、しゃべっていないのに注意したり、なぐったり、身勝手すぎる。いいかげんにしてほしい」「高校向きと中学向きの先生がいるので、ちゃんと分けて担任にしてほしい」等7名。

【中三】 ○「先生の身勝手な言動」「先生が生徒に注意したことを先生自身が守っていない(信号無視など)」「先生によって生徒への対し方がちがう」等17名。○「もっと生徒を信じてほしい」「生徒活動、道徳の時間など、先生ばかりで決めて、全くつまらなかった」「もっと生徒の意見を入れてほしい」「厳しくすべきところ、自由にさせるべきところをよく考えて指導してほしい」「学年内の問題をおこさないためにも、先生同士よく話し合っ方針を決めてそれを守ってほしい。そのためにも先生同士よく連絡をとり合っほしい」「先生が部活動に参加して」「年とった先生が若々しくはりきってほしい」「先生の身近におこった出来事、世の中のことについての意見をききたい」「かっこうつけず、自分をさらけだして会話をしてほしい」「りくつで生徒を言いくるめない」「充実した授業」「授業中もっと生徒に当てた方がよい」等12名。

【高一】 ○「授業について」「教科書選択」「この学校の教師は自分の好みで授業をやっているようだ。このため、授業面でのかたよりができている」等14名。○「もっときびしくしてほしい」「規則を守らせること」「下校時刻をもっときびしく」「儀式(入学・卒業)くらいはじめをつけて、きちんとしたい」「やることなすことがまるで不完全燃焼みたい。もっと生徒を燃えさせるようにハッパをかけるというか、そんな態度がない」等13名。○「盗難の対策を」5名。○「部活動にもっと力を入れてほしい」4名。○「進学指導を」3名。○「差別、ひいきをやめよ」「外部・内部ということばをあまり使ってほしくない」「できない生徒を見下さないで」等4名。○「先生を若くせよ」「先生の自覚を望む」等3名。

【高二】 ○「もっときびしくしてほしい」「もっと威厳をもって」等10名。○「教師のたるみを正せ」「もっと意欲的に」等11名。○「部活動が不活発なのは教師に責任があると思う。しっかりした顧問をつけてほしい」等3名。○「先生の研究日をなくせ」3名。○「同じ先生が、いつまでもいては、先生にとっても生徒にとっても、マイナスの面が多い」「校長を交代にするなら、教師もそうするのがよい」等3名。○「授業の時間を守れ」「教師が授業だけ適当にやって、後は知らんといった態度はとるな」「教師が何もしないで、“成績が悪い”と言われるのは、とても腹が立つ。それと、生徒たちに“遅刻・欠席をするな”というなら、自分たちも朝8時40分に学校へ来て、研究日などつまらんものを作るな」「もっと部活など教科以外のことに熱を入れてほしい」「教師の方で生徒を見限っている風がある。できが悪い、というばかりで、どうすべきか考えていない。教育学部付属で何の研究をしているのだろうか」「教師同士がもっと協調を」「はっきり言って先生たちの方が、ぬるま湯につかっているみたいだ。一部の先生はいろんなことを積極的にやってくれるけれど、大半は、生徒の方から意見を言っても話し合いもせずだめだと言ったり、無視したりする傾向がある」「以前からこういう校風だといって、補習をしないとか、進学指導をあまりしないとかいうことを押しつけないでほしい。そして、生徒の進学率が公立に比べて悪いというのなら、何もかも生徒のせいにししないで、公立と全く同じ条件下において比較してほしい。ここの学校は、いつでも“生徒が悪い”というが、教師側にしても、古くさくて現代の状況に適應していない面がある。もっと現実を見て反省してほしい」「生徒を指導したいのなら、自分たちの行動をもって生徒に示せよ」「以前、自殺者があったとき、先生等のそれなりの考え、私たちに対する思いが絶対伝えられると思っていたが、ノートタッチであったので、先生に対して求める心が失せてしまった。その時、すっごく何

か言ってほしかった。オーバーに言えば、「私たちはモルモット?」なんて思いこんでみたり。」「生徒というグライダーを、たとえ羽根が折れてスクラップされそうでも、それをちゃんといやがっても直して空に上げてやってほしい」「今、校内暴力などが起こっているが、これは、今の教育方針が作った原因だと思う。もう二十年後を考えてもらいたい。利己主義の大人たちが、一人でもけおとそうと人の足をひっぱり合う、悲しいことだと思う。毎年、「何人、あの大学へ入れた」というよりも、「この学校の生徒は頭は普通だが、性格はいいのが多い」と言われた方がいいのではないのでしょうか。まず、今の教え方、生徒の見方などを考え直してほしい」「学校って、先生と生徒の心がかみ合ってはじめて成り立つものだと思う。生徒を信じない先生やバカにする先生と、私たちがうまくかみ合っていくはずがない。生徒も心の交流なんてものはいらんと思う先生には、もう何も言う気にはなれない。私たちだってバカじゃないから、私たちが信頼してくれる先生は信頼したいし……「愛には愛を……」だと思う」「5年もこの学校に通い、この学校のふんい気など、もうわかってしまって、新鮮さなんて全くない。「ぬるま湯」っていう表現があったけど、全くそれだと思う。といて、自分が先頭に立って、それを熱湯にするために燃えようと思わない。私も一人のぬるま湯の中の人間だから」「口で言っているだけで、それを改善しようという対策がみられない。いわゆる名大付気質がなんともイヤノ」等15名。○「生徒をむやみに疑うな」「今は盗難のことに對して、ここ2・3日、2人ぐらいの先生が見回りして、やたらめったら生徒を疑って、まるで犯人だと言わんばかりの質問をしているが、急にこんなことを思いつきのようによったって、全く何にもならないと思う。現に、2・3年前より多額のお金が盗まれたりしているのに、何もやらない。警察でも呼んで徹底的にやるべきだ。そうでないと、何もしてないのに疑われている子がかわいそうだ」「今、盗難とかいろいろあるみたいだけど、私はきのうの放送による注意を聞くまで何も知らなかったが、先生たちの間だけで、こそこそして、非常にいやな気分です。何か事件があったら、もっとはっきりさせてほしいノ」等6名。

以上、「学校、教師に対する不満や要望」として書かれた生徒たちの声を、なるべく数多く列記してみた。内容としては、学校側の、厳しさと熱意のある積極的な指導や、教師と生徒との信頼関係を強く求める声の主調をなしている。生徒の指摘の中には、単純な誤解や勝手に性急な意見もあるが、学校、教師の立場として謙虚に耳傾け、今後の着実な指導に向けて参考とすべき意見が多い。

K. 中学生活3年間をふり返って(中三のみ対象)

(1) 3年間をふり返ってみて、特にすばらしかったと思うことがあるか。それは、主としてどんなことか。

「ある」は、男子55%、女子71%。その内容は、①文化祭関係26名(男9、女17)、②友人関係25名(男6、女19)、③林間学校11名(男8、女3)、④修学旅行6名(男3、女3)、⑤その他である。

「一年のとき、今の本当に信頼できる、何でも相談できる親友とめぐりあえたことです」(女)、「小学校の時よりも幅広く友だちをもてたことがよかったと思います。いっしょに考えたり、競争したり、喜んだり悲しんだりしたことがすばらしかったと思います」(女)。

(2) 3年間をふり返ってみて、特にいやだったと思うことがあるか。それは、主としてどんなことか。

「ある」は、男子60%、女子81%。その内容は、①友人関係及び学級問題(「友人とのもめごと」「一部のいやなグループ」「クラスのみとまりのなさ」等)30名(男7、女23)、②先生たちの態度(「生徒を信用しない」「いろんな先生から最悪の学年だと言われたこと」等)12名(男5、女7)、③勉強・テスト4名(男3、女1)、④部活、林間学校各3名、その他、である。

「内気で言いたいことも自由に言うことができず、そのために変な誤解をされたりしてよくいじめられた。ある一人の子(グループの番長みたいな子)が一人でいばっていて、私はその子と相性が悪く、孤独だった。クラス全体からはばにされたみたいで、毎日学校へ来るのがいやだった」(女)、「数人の人たちのために授業が中断されたり、教えてもらえなかったりしたことがいやだった。その人たちのために修学旅行がめちゃくちゃにされたことが3年間で一番いやだった」(女)等。

(3) 3年間を通じて最も強く反省させられること

全員の82名中、「別になし」が11名(男8、女3)あったが、71名の答えた主な内容を記すと次のようである。

①「勉強のこと」「勉強をもっとまじめにすればよかった」「授業中さわいだこと」等33名(男18・女15)。

②「けじめのない生活をだらだらと送ってしまったこと」「全力を尽くして立ち向かえるものが少なかった」「中途半端に貴重な時間をただなんとなく過ぎてしまった」等28名(男10・女18)。

③「友人とのつきあい」「人の立場を考えなかった」「人はみかけによらない」「正直で、人のことを思いやることはとても大切だということ」「他の人との調和を大切にする上で自分の意見を主張しなければいけないということ」「自分の性格がいじわるだったこと。自分ではわからなかったけど、友人にそう言われて、そうだったのかあーと思わされた」等11名(男2、女9)。

④「部活動にあまり参加しなかった」「自分の態度度が消極的すぎ、委員会等をなるべく避けて通った」

「実行力に欠けていた」等10名(男1、女9)。

⑤「自分勝手にいろいろやったこと」「学校の規則を破ったこと」「遅刻したこと」「お金の使いすぎ」等6名(男4、女2)。

全体を通じて、卒業式を控えた時点での中三生徒の気持ち素直に示されていると思う。生徒たちにとって、学校生活がすばらしいものとなるか、つまらないものとなるかを左右するほどの大きな関心事が、交友関係や学級内のまとまりの問題であることがよくわかる。学校が生徒全員に対して、入学時から、学級を中心とする集団生活の中で協力し合う活動の喜びを体得させたり、友情を培ったりする指導を積極的にすすめる必要のあることを、あらためて感じさせられる。

3. 今後の課題

上記のように、調査の結果を整理する過程で、アンケート用紙の狭い欄にぎっしりと書き込まれた、さまざまな意見に接していると、生徒たち個々の内心の声が耳元に聞こえてくるように思われた。無記名式の調査であったが、不真面目な回答はほとんど見られず、中には、記名の上、切実な感想、要望を述べたものもあった。

私たち教師は、往々にして、現在の生徒たちが救い難いほど無気力な状況にある、などと話題にすることがある。しかし実際は、今、多数の生徒が、内心では充実した学校生活を強く求めているとあってよい。彼らが、自由、自主性と共に、筋の通った厳しい指導や、規律とまとまりのある集団生活を望んでいることは、すでに調査の結果で見てきた通りである。厳しさのない雰囲気や身勝手な行動を「自由」「自主性」と誤解し、いわゆる「ぬるま湯に浸りきっている」者もいるが、それは少数である。本校の空気を、「厳しさに欠ける」という意味において、「自由」であると感じている生徒は多いが、その「自由」をそのまま肯定し、満足している生徒は、むしろ少ない。「自主性が尊重され、生かされている」と感じる高校生は、20%程度に過ぎない。学習及び諸活動に対して強い意欲をもつ生徒も、中・高ともに非常に少ない。あるいはまた、自由、自主性の意味がよくわからないと困惑を示す生徒も少なくない。そして、「自由・自主性尊重といながら、実際は放任主義にすぎない」「ぬるま湯に浸りきっているのは、教師の方ではないか」という類の、学校・教師への批判がかなり多いことも、軽く看過すわけにはいかない。

こうして、生徒の意識の実態と照らし合わせてみることで、自由や自主性の指導の困難点、陥りやすい問題点が浮かび上がってくるように思われる。生徒たちをして、積極的に意欲をもたせ個性を伸ばさせ、また協

調させるための自由、自主性尊重の教育方針が、逆に、意欲を喚起させず、目標を見失わせるような状況の原因ともなっていることを反省してみなくてはならない。

さて、ここで私は、日本国憲法第12条を引用してみたい。「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない。又国民はこれを濫用してはならないのであって、常に公共の福祉のためにこれを利用する責任を負ふ」と記されていることは、重要な教訓になる。教師も生徒も、日常的に、まさに不断の努力によって、自由や自主性を厳しく尊重し、それを生かすようにしなければならないことを強く感ずるのである。そうすることが、この教育方針を形骸化から救い、活力ある実践のよりどころになしうると、私は信ずる。

学年をはじめ、この原稿をまとめている間にも、本校で、すでに何件かの生徒指導上の問題が起きている。具体的な内容は省略するが、当該生徒たちへの対処の仕方について、担任会や指導部会で話し合われながらも、実際の場面では必ずしも歩調がそろわず、「指導」の結果、かえって予期しない問題を惹起してしまうことがあった。教官会議で生徒指導上の細かい点の協議に入ると、議論百出、意見が対立し、平行線をたどるようなことはしばしばある。教師全体の意見の調整や意志統一は当然のこととはいえ、実際には、非常に根気を要することなのである。教官会議での協議の前提として、各学年の担任会や各校務分掌の部会などの場を通じて、教師間の情報交換や意見交流を活発に重ねることが当然必要となる。そして、教官会議で合意された決定事項については、全員が協調してその指導を徹底させる。そうすることにより、生徒に対して、厳しく、説得力ある指導が可能になるのである。単純なことではあるが、このような指導体制を着実に築き、活動を軌道に乗せることが、本校の生徒指導にとって、さしあたり最大の課題であると考えられる。

なお、具体的に厳しい指導というと、外形面の細やかな事柄を次々に規制していくことのみ終始しやすいが、それでは、本質的な問題解決にはならない。むしろ、安易な管理主義的統制となり、自主性を育てようとする教師を懐疑的にさせ、また、自主的でありたいと努める生徒の不信感や反抗心をつのらせることとなる。厳しい指導は、自主性と共に、義務感・責任感を確実に身につけさせ、協調的で、規律ある集団生活を積極的に営ませるものでなくてはならない。

〔注〕

(1)拙稿「教科外活動の指導について」(『名大教育学部附属学校紀要第23集、1978』P.30)

(2)拙稿「中学生の生活と意識」(『同第24集、1979』P.18)